



南ぬ風

一般財団法人 沖縄美ら島財団 広報誌
ふえーぬかじ

2018.1~3
Vol. 46
冬号



沖縄美ら海水族館内での中国語ボランティア通訳の様子。



中国人留学生や一般市民との交流の一環で、餃子作りを体験。

「公開講座で中国語を学ぶ生徒さんには、どんな方が多いですか？」
定年退職された方、観光関係の仕事をしている方、主婦、留学経験のある社会人、高校生など年齢層も幅広いです。中国語の入門・初中級講座には海洋博物館や沖縄美ら海水族館のスタッフも数名います。

「公開講座で中国語を学ぶ生徒さんには、どんな方が多いですか？」
定年退職された方、観光関係の仕事をしている方、主婦、留学経験のある社会人、高校生など年齢層も幅広いです。中国語の入門・初中級講座には海洋博物館や沖縄美ら海水族館のスタッフも数名います。

「公開講座で中国語を学ぶ生徒さんには、どんな方が多いですか？」
定年退職された方、観光関係の仕事をしている方、主婦、留学経験のある社会人、高校生など年齢層も幅広いです。中国語の入門・初中級講座には海洋博物館や沖縄美ら海水族館のスタッフも数名います。

「公開講座で中国語を学ぶ生徒さんには、どんな方が多いですか？」
定年退職された方、観光関係の仕事をしている方、主婦、留学経験のある社会人、高校生など年齢層も幅広いです。中国語の入門・初中級講座には海洋博物館や沖縄美ら海水族館のスタッフも数名います。

「賀先生は日本歴も長いそうですね。沖縄に来る前は長崎に住んでいました。長崎も沖縄も、中国の影響を感じますね。例えば、長崎には「ペーロン」という舟漕ぎ競争があります。沖縄でいうとハーリーのようですね。沖縄は料理の味付けも中国に似ているので、私はすぐに慣れました。」
「大学では学生だけでなく、「公開講座」でも中国語を教えられているとか。」
はい。名桜大学は、1994年、沖縄県並びに名護市を中心とする北部12市町村によって設立された沖縄県唯一の公設民営の私立大学でしたが、2010年「平和・自由・進歩」の建学の精神はそのまま継承され、公立大学に生まれ変わりました。学生向けの授業だけでなく、一般の方向けの「公開講座」も充実しています。私が名桜大学へ来た時も、学生と市民の両方に教えるという約束がありました。また、地域連携の一環で、中学校等に出向いて行う「出張講座」に行くこともあります。

「賀先生は日本歴も長いそうですね。沖縄に来る前は長崎に住んでいました。長崎も沖縄も、中国の影響を感じますね。例えば、長崎には「ペーロン」という舟漕ぎ競争があります。沖縄でいうとハーリーのようですね。沖縄は料理の味付けも中国に似ているので、私はすぐに慣れました。」
「大学では学生だけでなく、「公開講座」でも中国語を教えられているとか。」
はい。名桜大学は、1994年、沖縄県並びに名護市を中心とする北部12市町村によって設立された沖縄県唯一の公設民営の私立大学でしたが、2010年「平和・自由・進歩」の建学の精神はそのまま継承され、公立大学に生まれ変わりました。学生向けの授業だけでなく、一般の方向けの「公開講座」も充実しています。私が名桜大学へ来た時も、学生と市民の両方に教えるという約束がありました。また、地域連携の一環で、中学校等に出向いて行う「出張講座」に行くこともあります。

「賀先生は日本歴も長いそうですね。沖縄に来る前は長崎に住んでいました。長崎も沖縄も、中国の影響を感じますね。例えば、長崎には「ペーロン」という舟漕ぎ競争があります。沖縄でいうとハーリーのようですね。沖縄は料理の味付けも中国に似ているので、私はすぐに慣れました。」
「大学では学生だけでなく、「公開講座」でも中国語を教えられているとか。」
はい。名桜大学は、1994年、沖縄県並びに名護市を中心とする北部12市町村によって設立された沖縄県唯一の公設民営の私立大学でしたが、2010年「平和・自由・進歩」の建学の精神はそのまま継承され、公立大学に生まれ変わりました。学生向けの授業だけでなく、一般の方向けの「公開講座」も充実しています。私が名桜大学へ来た時も、学生と市民の両方に教えるという約束がありました。また、地域連携の一環で、中学校等に出向いて行う「出張講座」に行くこともあります。

「賀先生は日本歴も長いそうですね。沖縄に来る前は長崎に住んでいました。長崎も沖縄も、中国の影響を感じますね。例えば、長崎には「ペーロン」という舟漕ぎ競争があります。沖縄でいうとハーリーのようですね。沖縄は料理の味付けも中国に似ているので、私はすぐに慣れました。」
「大学では学生だけでなく、「公開講座」でも中国語を教えられているとか。」
はい。名桜大学は、1994年、沖縄県並びに名護市を中心とする北部12市町村によって設立された沖縄県唯一の公設民営の私立大学でしたが、2010年「平和・自由・進歩」の建学の精神はそのまま継承され、公立大学に生まれ変わりました。学生向けの授業だけでなく、一般の方向けの「公開講座」も充実しています。私が名桜大学へ来た時も、学生と市民の両方に教えるという約束がありました。また、地域連携の一環で、中学校等に出向いて行う「出張講座」に行くこともあります。

地元と連携をとりやすいのが沖縄の良いところ

「賀先生は日本歴も長いそうですね。沖縄に来る前は長崎に住んでいました。長崎も沖縄も、中国の影響を感じますね。例えば、長崎には「ペーロン」という舟漕ぎ競争があります。沖縄でいうとハーリーのようですね。沖縄は料理の味付けも中国に似ているので、私はすぐに慣れました。」

「賀先生は日本歴も長いそうですね。沖縄に来る前は長崎に住んでいました。長崎も沖縄も、中国の影響を感じますね。例えば、長崎には「ペーロン」という舟漕ぎ競争があります。沖縄でいうとハーリーのようですね。沖縄は料理の味付けも中国に似ているので、私はすぐに慣れました。」

「賀先生は日本歴も長いそうですね。沖縄に来る前は長崎に住んでいました。長崎も沖縄も、中国の影響を感じますね。例えば、長崎には「ペーロン」という舟漕ぎ競争があります。沖縄でいうとハーリーのようですね。沖縄は料理の味付けも中国に似ているので、私はすぐに慣れました。」

「賀先生は日本歴も長いそうですね。沖縄に来る前は長崎に住んでいました。長崎も沖縄も、中国の影響を感じますね。例えば、長崎には「ペーロン」という舟漕ぎ競争があります。沖縄でいうとハーリーのようですね。沖縄は料理の味付けも中国に似ているので、私はすぐに慣れました。」

「賀先生は日本歴も長いそうですね。沖縄に来る前は長崎に住んでいました。長崎も沖縄も、中国の影響を感じますね。例えば、長崎には「ペーロン」という舟漕ぎ競争があります。沖縄でいうとハーリーのようですね。沖縄は料理の味付けも中国に似ているので、私はすぐに慣れました。」

「賀先生は日本歴も長いそうですね。沖縄に来る前は長崎に住んでいました。長崎も沖縄も、中国の影響を感じますね。例えば、長崎には「ペーロン」という舟漕ぎ競争があります。沖縄でいうとハーリーのようですね。沖縄は料理の味付けも中国に似ているので、私はすぐに慣れました。」

「賀先生は日本歴も長いそうですね。沖縄に来る前は長崎に住んでいました。長崎も沖縄も、中国の影響を感じますね。例えば、長崎には「ペーロン」という舟漕ぎ競争があります。沖縄でいうとハーリーのようですね。沖縄は料理の味付けも中国に似ているので、私はすぐに慣れました。」

「賀先生は日本歴も長いそうですね。沖縄に来る前は長崎に住んでいました。長崎も沖縄も、中国の影響を感じますね。例えば、長崎には「ペーロン」という舟漕ぎ競争があります。沖縄でいうとハーリーのようですね。沖縄は料理の味付けも中国に似ているので、私はすぐに慣れました。」

「賀先生は日本歴も長いそうですね。沖縄に来る前は長崎に住んでいました。長崎も沖縄も、中国の影響を感じますね。例えば、長崎には「ペーロン」という舟漕ぎ競争があります。沖縄でいうとハーリーのようですね。沖縄は料理の味付けも中国に似ているので、私はすぐに慣れました。」

「賀先生は日本歴も長いそうですね。沖縄に来る前は長崎に住んでいました。長崎も沖縄も、中国の影響を感じますね。例えば、長崎には「ペーロン」という舟漕ぎ競争があります。沖縄でいうとハーリーのようですね。沖縄は料理の味付けも中国に似ているので、私はすぐに慣れました。」

「賀先生は日本歴も長いそうですね。沖縄に来る前は長崎に住んでいました。長崎も沖縄も、中国の影響を感じますね。例えば、長崎には「ペーロン」という舟漕ぎ競争があります。沖縄でいうとハーリーのようですね。沖縄は料理の味付けも中国に似ているので、私はすぐに慣れました。」

「賀先生は日本歴も長いそうですね。沖縄に来る前は長崎に住んでいました。長崎も沖縄も、中国の影響を感じますね。例えば、長崎には「ペーロン」という舟漕ぎ競争があります。沖縄でいうとハーリーのようですね。沖縄は料理の味付けも中国に似ているので、私はすぐに慣れました。」

「賀先生は日本歴も長いそうですね。沖縄に来る前は長崎に住んでいました。長崎も沖縄も、中国の影響を感じますね。例えば、長崎には「ペーロン」という舟漕ぎ競争があります。沖縄でいうとハーリーのようですね。沖縄は料理の味付けも中国に似ているので、私はすぐに慣れました。」

「賀先生は日本歴も長いそうですね。沖縄に来る前は長崎に住んでいました。長崎も沖縄も、中国の影響を感じますね。例えば、長崎には「ペーロン」という舟漕ぎ競争があります。沖縄でいうとハーリーのようですね。沖縄は料理の味付けも中国に似ているので、私はすぐに慣れました。」



賀南

公立大学法人名桜大学 リベラルアーツ機構 中国語専任上級准教授

HE NAN

文 二のうえちず

中国遼寧省鞍山出身、上海交通大学卒業後、長崎大学大学院博士課程修了。長崎大学、西南学院大学、長崎外国語大学の講師を経て2016年10月より名桜大学リベラルアーツ機構専任上級准教授に。日中神話の比較研究が専門だが、現在は学生向けの授業や一般向け公開講座で中国語を教える。



一般向け・学生向けに
中国語と中国文化を
発信する

2016(平成28)年に「包括的連携協定」を締結した公立大学法人名桜大学と沖縄美ら島財団(以下、財団)。協定締結以前から寄付講座やインターシップの受け入れなどで協力体制にあったが、双方の資源を有効に活用し、地域社会に貢献するには、今後はこの協定が力ギとなる。沖縄観光に貢献する取り組みの一つについて、賀南先生に聞いた。

contents

美ら島をつなぐ人 02
おきなわ歳時記 04
沖縄 美ら海水族館で出会える生き物 05
沖縄の希少植物 05
調査研究 06
運営管理 08
スポットライトの向こう側 10
海洋文化コラム 12
沖縄の大木 12
財団いんふお・特別版~周年事業~ 13
財団いんふお 15
編集後記 15
おもろさうしの植物 裏表紙

作品タイトル「光の座」

北中城村文化協会賞

海の生き物を描くのが好きで、沖縄の大学に進学したという白砂さん。本作は、沖縄美ら海水族館でジンベエザメがエサを食べる場面を動画で撮り、動きを何度も見ながら仕上げたという。「光に向かってのぼっていくイメージに自分を投影しました」時間が経つと錆びる金属にヒントを得て、日本画の絵具に錆び色を帯びさせた。

沖縄県立芸術大学 美術工芸学部 絵画専攻
白砂 真也さん(三重県出身)

43号から46号までの1年間は、沖縄県立芸術大学・大学院造形芸術研究科「第28回卒業・修了作品展」で受賞した4作品が表紙を飾ります。若い才能にご注目ください。

誌名「南ぬ風(ふえーぬかじ)」とは…
南ぬ風は、梅雨明けとともに南から吹き込んでくる強い風のことで、この南の風によって育まれてきた沖縄の自然や文化をさらに「南ぬ風」に載せ全国に発信していきたいと思ひます。



白砂 真也さん(三重県出身)



琉球開闢神話の舞台でもある安須社のおひざ元、辺戸大川でのお水取り儀式

元旦の朝、初めて汲む水を「若水」と呼び、一年の邪気を払うとする民間信仰が日本全国にある。琉球王国にも同じような考え方があり、今も正月の若水を額につけて無病息災を祈る「御水撫で」や、若水を汲む際、井戸の神さまに感謝の祈りを捧げることを「初御水」と呼んで大切にする地域もある。

『琉球国由来記』などによると、王府でも元日の朝には国王がウビーナディーをして朝拝御規式などの公式行事に臨んだとされる。この時使われる若水は美御水と呼ばれ、年末に沖縄本島最北端の辺戸で汲んだ水と、元日の朝汲んだ水を合わせたもの。旧暦の12月20日、王府は使者を辺戸に送って大川の水を取り寄せ、12月28日に届いた水を円覚寺に保管し、元日の朝、その年の吉方の井戸で汲んだ水と合わせていた。

1998年に、辺戸のお水取りが辺戸区の有志を中心に復活。当初は仲間内でのイベントとしての復活だったが、年々見学者も増えて規模が拡大し、現在では辺戸区活性化のイベントとして、また年末の風物詩として欠かせない存在となっている。

当初、辺戸からの美御水を受けていたのは首里城復元期成会※1だったが、2000年からは首里当蔵自治会が「首里城への美御水の奉納祭」を実施してい

辺戸のお水取りと若水献上

現在では、浦添市沢岬樋川で汲んだ水を記録にある「吉方の水」と見たて、円覚寺総門前で辺戸からの水と合わせる儀式を行う。首里クエーナ保存会※2による神歌に合わせ、ゆったりと首里城へ歩く行列（ウスネーイ）は古式行列さながらの雰囲気。一行は久慶門から御内原へと向かい、女官役の水を献上する。



首里城へと登城する美御水献上の行列

※1:首里城復元に尽力。石碑を9基復元し首里城公園に寄贈した。(活動期間:1973年~2009年)

※2:琉球の古謡である「クエーナ」の保存、継承を行う団体。首里城正殿復元の起工式奉祝のため結成された。1994年には那覇市無形文化財に指定された。

沖縄 美ら海水族館で 出える生き物

Vol.8



タナゴモドキ(雄)



タナゴモドキ(雌)

和名: タナゴモドキ
科名: カワアナゴ科
学名: *Hypseleotris cyprinoides*

タナゴモドキは主に奄美諸島以南に分布する、ハゼ亜目カワアナゴ科の淡水魚で、河川開発等による生息環境の悪化により、絶滅が心配されています。「ハゼ」の仲間ではありますが、外見はコイ科の「タナゴ」に似ているため、この名前が付けられたとされています。

全長は8cmほどで、体色は全体的に黄褐色で口先から尾鰭にかけて黒い線があります。雄と雌では外見が異なり、雄の背鰭や尻鰭には白い斑点や縁取りがみられますが、雌では透明です(写真)。さらに繁殖期の雄は体色が黄褐色から橙色に変化し、いわゆる「婚姻色」を呈して雌へ求愛します。

産み落とされる卵は魚類最少級のサイズであることから、飼育下での繁殖が難しく、沖縄美ら海水族館では2008年に初めて繁殖に成功しました。淡水コーナーにて、雄雌の外見の違いに注目して是非ご覧ください。(高野 はるか)

沖縄の希少植物 Vol.26

和名: シマバラソウ(ヤンバルミゾハコベ)
科名: ミゾハコベ科
学名: *Bergia serrata*
レッドデータカテゴリー: 絶滅危惧 IA類(沖縄県)



シマバラソウの花



シマバラソウ全体

「えっ!田んぼにも希少植物がいるの?」多くの方はそう思われるでしょう。実は沖縄県の希少植物685種類のうち111種類がいわゆる「田んぼの雑草」。シマバラソウは伊是名島で24年ぶりに再確認した希少植物です。

国外では中国南部、台湾とフィリピン、国内では長崎県以南に点々と分布し、沖縄県内では伊是名島のほか大宜味村でも記録があります。花は小さく、直径わずか3~4mmほど。色は淡いピンク~白の可愛い花です。

植物図鑑などにシマバラソウの写真や図が掲載されていないこともあり、専門家でも名前は知っていても実物は見たことがないという幻の植物でした。この植物が自生なのかそれとも帰化なのか、専門家の間でも意見は分かれています。可愛らしくても謎の多い、研究者泣かせ!の植物です。

(赤井 賢成)

世界初、「水族館」で生まれたナンヨウマンタの大人への成長を確認



ナンヨウマンタ採血の様子

皆さんナンヨウマンタをご存知でしょうか？ナンヨウマンタは世界最大のエイの一種で、沖縄美ら海水族館でも飼育展示されており、2007年には世界で初めて本種の飼育下繁殖に成功しました。

また、2008年6月17日には、2例目となる出産が確認されました。この時誕生した雄個体について、沖縄美ら島財団では、7年以上に渡り詳細なモニタリングを続けてきました。その結果、生後5年頃には生殖が可能な状態（性成熟）に達していたと結論付けることができました。

■ 飼育下のモニタリング

ナンヨウマンタに関する調査・研究は、野外での観察が中心です。ナンヨウマンタは、腹面部分にある黒い斑紋で、個体を識別することができ、その斑紋を頼りに、追跡調査を行います。しかし、野外での追跡調査は、識別した個体を定期的に観察することが難しく、情報が断片的でした。一方で、飼育環境下では血液などのサンプルの定期的な採取や

行動観察が可能となります。今回、沖縄美ら海水族館の飼育技術と良好な飼育環境により、ナンヨウマンタの誕生から性成熟までの詳細なモニタリングデータの取得が可能となったわけです。

■ 赤ちゃんマンタの成長

今回モニタリングした個体は誕生時の体盤幅※が182cmでした。この値は、野外での観察結果より30〜50cm大きい値で、妊娠時の母体の

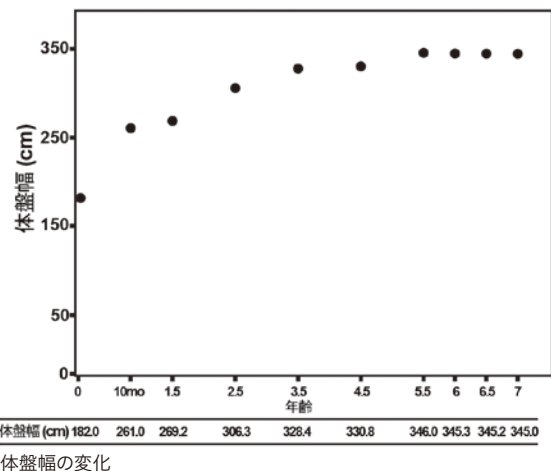


ナンヨウマンタのクラスパー

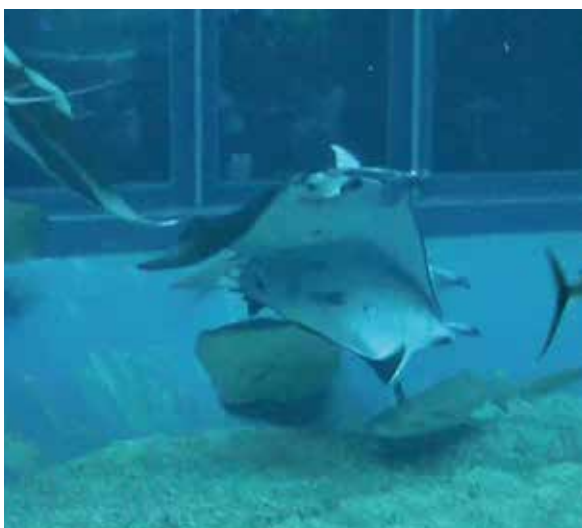
栄養状態が影響したと考えられます。生後3年頃までには体盤幅が約350cmに達しました。その後体盤幅のサイズは現在、ほとんど変わっていません。これまでに野外で報告されている最小の性成熟サイズは270cmとされており、本個体は生後2年6ヶ月の時点で300cmを超えていました。このように体サイズだけ見ると、かなり早い段階で性成熟に達していると考えられました。

■ 性ホルモンの調査

体サイズの変化だけでなく、体内の変化からも性成熟を知ることができます。エイ類も、我々人間と同じように女性ホルモンや男性ホルモンが存在します。採取した血液中の濃度を調べることで個体の性成熟を知ることができます。特に雄の場合、男性ホルモン（テストステロン）の上昇が性成熟の指標



体盤幅の変化



交尾の様子

として利用されている種が多数います。実際、今回モニタリングした個体においても、生後3年頃の男性ホルモンの濃度は未成熟の別個体に比べて非常に高い値を示していました。性ホルモンの側面からみると、ナンヨウマンタは生後3年頃から性成熟に向けての準備を整えつつあると考えられました。

また、エイ類は左右一対のクラスパー（交尾器）を持ち、交尾をして体内受精によって繁殖します。クラスパーは雄が持ち、性成熟とともに伸長し硬くなります。今回モニタリングした個体は、生後5年4ヶ月でこの変化を観察することができました。そして、2013年10月（生後5年4カ月）には本個体が水槽内で交尾したことを確認しました。その後、クラスパーから精液を採取することにも成功し、運動能力を有する精子を産生していることを確認しました。

近い将来、この雄個体が親となり、次世代のナンヨウマンタが沖縄美ら海水族館に登場する日も近いかもしれません。是非ご期待下さい。

（野津 了）

※ 体盤幅：胸鰭を広げた際、胸鰭の先端間の長さ。エイ類の体サイズを示す指標として使用されている。

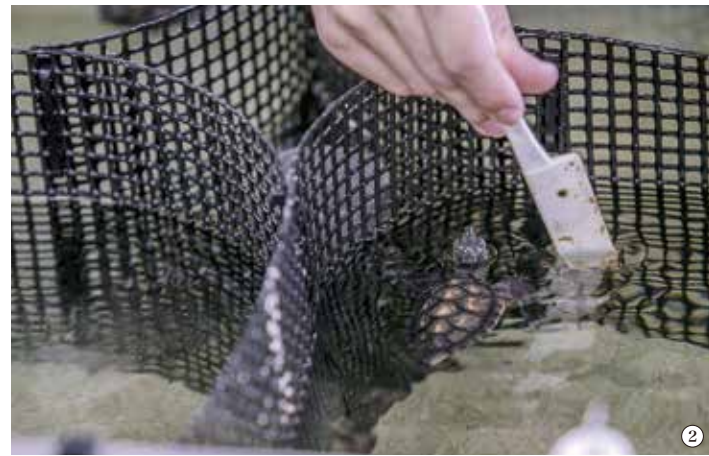
「学び」を提供するために
美ら島自然学校だからこその

地域との連携で育まれる
自然を大切にすること



ウミガメ飼育施設の水槽。

ウミガメ飼育施設が完成し、 子どもたちの学習がより深いものに



②



①



③

- ①ウミガメ飼育施設。管理しやすいように水槽を設計している。
- ②エサは魚のミンチや配合飼料を与える。
- ③諸志御嶽の植物群落をめぐる学習会
- ④左：鈴木瑞穂技師、右：伊藝元主任。
- ⑤ウミガメの甲羅を計測する緑風学園の児童(3年生)。
- ⑥緑風学園7年(中学校1年生)を対象にした学習。
- ⑦自然学校校庭でグラウンドゴルフを楽しむ安部区老人会の皆さん。



④



⑤



⑥



⑦

飼育施設では、子ガメの生態を調査・研究している。自然学校主催の学習会でウミガメ飼育施設を観察の場としても活用するほか、地元緑風学園と連携した学習では、小学校3年生がウミガメをテーマに毎月、甲羅の大きさを計測して記録するなど、飼育を通じた学習を行っている。

「自分が担当するウミガメの成長記録をつけることで、子どもたちも興味をもってウミガメに接するようになります」と鈴木技師はほほえむ。ウミガメ飼育施設は、最大で112個体の子ガメが飼育可能。個体ごとに

仕切っているのは、エサの量や体重など個別に管理をするため。子どもたちにも番号別管理を徹底してもらおうという。海洋博公園のウミガメ館で生まれた子ガメの一部をここで約1年育て、標識を付けて海洋博公園で放流している。

鈴木技師は言う。

「緑風学園の6年生は、海の生き物と環境をテーマに学習します。例えば、水温や塩分を測ったり：自然学校という場を活かして、楽しみながら活動してもらえたら嬉しいです。」

(文Ⅱいのうちず)

名護市嘉陽区にある美ら島自然学校(以下、自然学校)。2009年に名護市立嘉陽小学校が閉校した後、沖縄美ら島財団(以下、財団)が、跡地利用事業者として地域の自然や文化を学べる場としてオープン。地域との連携に力を入れた地道な活動は3年目を迎える。

「2016年に嘉陽区・安部区と名護市、財団とで、連携協定を締結しました。嘉陽小学校はウミガメの学習を以前よりしていた経緯があり、当時から財団職員が講義を行うなど、関わりがあったんです。嘉陽区では以前から、ウミガメ調査をされている方がおり、今でもお話を伺いながら、調査にご協力いただいています。ウミガメの産卵情報やストランディング※については、地元の方々から情報を提供していただくことが重要なんです。」

とは、自然学校担当の鈴木瑞穂技師。普段から地元の方に連絡をもらえる体制づくりを心がけていると語る。その甲斐もあり、自然学校の校庭では時折、地元の方々がグラウンドゴルフで楽しむ姿も見られる。

また自然学校では、一般向けの講座を開くことも多い。天然記念物

講座と題して、今帰仁村の諸志御嶽の植物群落や、大宜味村の田港御願の植物群落などを専門家と共に回る学習会や、植物をテーマにした学習会をすることも。

さらに、名護市立小中一貫教育校緑風学園、同市立名護小学校、稲田小学校では、一年を通じた学習を行っている。

「二年を通じた学習の中では、普段見慣れているけどよくわかっていなかった生き物について学ぶことで、自分たちの地域に目を向けるきっかけになればと考えています。例えば、男の子はよく釣りに行きますが、それが海の魚なのか、川の魚なのか、あるいは泥の多い地域だからこういう体のつくりをしているのかを教えることで、『見たことあるけど名前を知らなかった生き物』について興味をもち、触ったことなかった生き物に触れたりするようになります。子ども達は目が慣れるのが早いので、見方を教えると、すぐに生き物を見つけたたり、似ている種を見分けたりするようになるんですよ。」

と話すのは、同じく自然学校担当の伊藝元主任だ。

2016年に完成したウミガメ

※:海生哺乳類が海岸線から陸地側へ生きた状態で産破したり、死んだ状態で漂着し、自力で本来の生息域に戻ることができなくなること。

幼い頃からの植物好きが高じ、中学生の頃には植物学の父・牧野富太郎※1に弟子入りするという異色の経歴を持つ小山鐵夫研究顧問。ニューヨーク市立大学在任中に「資源植物学」を確立し、筑波大学や琉球大学でも教鞭をとった。現在、沖縄美ら島財団(以下、財団)が参画している「ソロモン諸島植物誌編纂事業」のキーパーソンで、後進の育成にも情熱を注ぐ。世界的な植物学者である小山顧問に、お話を聞いた。

沖縄美ら島財団
総合研究センター
研究顧問
小山 鐵夫
こやま てつお



植物に興味を持たれたのは何歳の頃からですか？
小山「遊びにはあまり興味がなくて、4歳から虫メガネでコケを見る子どもだったそうです(笑)。私は東京日本橋の生まれで、戦時中は小学生でした。その頃、岐阜県大垣市内へ疎開したので、滋賀県ではあります。近くの伊吹山には何度も行きました。あそこには織田信長の薬草園で植えられた植物が残っている

たりして、面白いですよ。東京にはない植物もたくさん見られるから、疎開中はおおいに楽しみましたね(笑)」
—その後、中学生で牧野先生に弟子入りとはすごい話ですね！
小山「戦後、東京に戻りました。戦争に負けて、日本は貧乏国でした。父は私が植物好きなのを見て、『植物学者では食べていけない』と心



たほうがいいと私は思います。それから、話題性のある国際研究のバルーンを上げるべきだと考えます」

—それが、「ソロモン諸島植物誌編纂事業」ですね。
小山「1990年代に国連環境開発会議が開催され、そこでは島国の問題も議論されました。太平洋やカリブ海、アフリカ大陸などの島国は、土地が狭い、人口が少ない、輸送コストがかかるためモノを作っても市場で競争できないなどのハンディキャップがあります。太平洋の島国は日本がサポートしていただきたいということになった。これは外務省の担当で、私が顧問だったので、一島一品運動を考えました。サモアは観光、トンガは農業というふうに、それぞれの特性を活かした産業を考える。ソロ

—沖縄での研究には、どんな可能性があると思われませんか？
小山「実は牧野先生、大井先生の植物図鑑には、本土復帰前の発行という点もあって、沖縄県は入っていないんですよ。他の研究者が出した沖縄の植物誌は2冊ありますが、西表島の調査は不十分です。西表島は島全体が国立公園で、自然のままの植生が残っている。現在、財団で調査を進めている西表島植物誌は、3年以内にはまとめ

配していたんですよ。ある日、私は憧れの牧野先生に手紙を書きましてね、そしたら返事が来たんです。私あてには『植物のことを勉強しなさい』と励ましを頂き、両親あてには『息子さんは植物の素養があるから、その道へ進ませてほしい』と書かれていたものだから、あんな大先生にそんなこと言われたら親も反対できなくなっちゃって(笑)。週に一度くらいは、学校を休んで牧野先生のお宅に通って牧野先生に直接教わりました。そのうち、私が先生のところを持つて伺った植物の中に、スゲ科やイネ科が多いので、牧野先生は私を国立科学博物館の大井次三郎※2先生に紹介したのです。私がスゲの研究を始めたのも、牧野先生がよくわからないならやってみようと思ったのがきっかけです。そのうち、週に1〜2度、大井先生に植物の文献学や分類学を習うようになりました。高校時代、生物の先生は『植物は小山が教える』と、私に講義をさせましてね、今でも同期会ではその話を思い出して話題になります(笑)」



—大井次三郎先生といえば、牧野先生に並ぶ、日本の植物学の父で、モン諸島は植物が豊富なので、それを活かして食の素材や薬の開発はどうか、と。2017年7月には、ソロモン諸島森林省、台湾国立自然科学博物館そして財団の3者で、MOA(共同研究契約書)を締結しました。加えて私の所属するハワイのビショップ博物館も協力します。ソロモン諸島の植物には何かあるかを調べたら、植物誌ができます。ソロモン諸島も沖縄も同様に、島嶼部の経済発展にはハンディキャップがある一方で、島々という環境は植物にとっては交雑しにくい環境であるため純粋なタネの生産が可能という長所があります。市場で競争するには、付加価値のあるものをやらないとい

—沖縄とご縁は、本土復帰よりも前からですね。ところで、小山先生が確立された資源植物学とは、どんな学問のですか？
小山「例えばイネなど、人間にとって有用で、絶えてしまつては困る植物がありますね。その種の保存をするために、花粉交雑が可能な植物は何かを研究します。今で言えば、遺伝子プールのような発想で、種の保存を考える学問です。当時、日本では植物学と農学はタテ割りになつていて、両方にまたがる研究はなかつたんですよ。でも資源植物学は、農学や植物学はもちろん、薬学や林業にも領域が広がります。私はむしろ、植物園がお

けない。これは沖縄の農業振興にも応用できると考えます」
—財団の総合研究センターでは、大学とは違う立場で、研究や普及啓発活動に取り組んでいますか？
小山「それも大切なことだと思います。海洋博公園には日本でも有数の植物園があるのだから、研究をおおいにやつてほしい。それから、熱帯ドリームセンターや熱帯・亜熱帯都市緑化植物園の来園者数を増やすために、いろんな話題を仕掛けて、知名度を上げてほしいですね。例えばフルーツを食べる催しや、野菜をテーマにした催し、世界一臭い植物の展示など、話題性のある催しものを考えないとお客さんを獲得するのは難しいと思います。広報活動を強化して、メディアへの露出度をおおいに上げてほしいですね」
—今日はありがとうございました。
(文)いのうえちす

※1:日本の植物学の父といわれ、多数の新種を発見し命名も行った近代植物分類学の権威。研究成果は50万点もの標本や観察記録、『牧野日本植物図鑑』に代表される多数の著作として残る。
※2:日本の植物学者。牧野富太郎と並んで、日本の植物分類学の基礎を築いた。カヤツリグサ科の植物を中心に分類を行い、多くの植物を命名した。

2017年は、首里城公園が開園25周年、沖縄美ら海水族館が開館15周年、沖縄県立博物館・美術館が開館10周年と、それぞれ周年を迎えました。

財団しんぷお
特別版～周年事業～
美ら島財団インフォメーション



首里城公園



2017年11月3日で開園25周年を迎えました。開園25周年のテーマを「未来につなげる 琉球王国のこころ」と題し、園内では特別展や、大人から子供まで楽しめるイベントを実施しました。



琉球泡盛の粋 in 銭蔵

2017年11月1日～11月5日



かつて王府が泡盛を貯蔵していたとされる「銭蔵」を会場に、沖縄県酒造組合と連携し泡盛イベントを開催しました。琉球泡盛の歴史文化に関する解説パネルや酒器の展示、仕次体験のほか、県内46酒造所の泡盛の試飲、首里蔵元めぐり(ガイドツアー)などを行い、お客様に泡盛文化の魅力や、楽しみ方を体験していただきました。

25周年記念メニュー

首里にある4酒造所から厳選された、4銘柄の琉球泡盛の古酒を、記念泡盛「25」として数量限定でご用意しました。古酒ならではの風格と雅な味をお楽しみください。

また、ポピュラーな沖縄料理、12品を小鉢に詰め合わせた新メニュー「首里杜御膳(すいむいごぜん)」を発売しました。

■ 首里城公園開園25周年記念泡盛「25」

瑞穂酒造28年古酒 36,270円
瑞泉酒造25年古酒 32,890円
識名酒造18年古酒 10,290円
咲元酒造11年古酒 6,230円



〔720ml、各25本限定、木箱入り、消費税込。首里城公園内ショップ「紅型」にて販売。〕

■ 首里杜御膳 1,600円(消費税込)

首里城公園「レストラン首里杜」にて1日限定30食で販売。



2018年3月31日までの期間限定。

FM 沖縄公開生放送

2017年11月4日



開園25周年を記念し、FM沖縄の公開生放送を実施。ゲストにアーティストの宮沢和史さん、jimamaさん、護得久栄昇さんを迎え、楽しいトークと熱いステージで会場を盛り上げて頂きました。

首里城の25年 ～平成の復元～

2017年7月7日～12月6日



首里城公園開園25周年、沖縄県立博物館・美術館開館10周年を記念して、両施設で企画展を開催しました。

首里城公園では、沖縄美ら島財団が王国時代の書や絵画、琉球漆器、陶器などを収集し、保存のため修理を施し、展示や教育普及へ活用を行ってきたこと、首里城公園が博物館的な機能を担ってきたことを周知したほか、25年間の調査研究の実績や成果をもとに復元した資料を紹介しました。

沖縄県立博物館・美術館では、博物館所蔵の鳥瞰図屏風・絵画作品を通し、首里城の描かれ方や当時の町の様子などを紹介しました。また、首里城公園の復元整備についての紹介と、沖縄県が復元整備を進める円覚寺三門や中城御殿の発掘調査についても展示しました。

今後も琉球王国時代の歴史や美術工芸品への調査・研究成果を活かし、来園するお客様が、首里城に興味関心を高めていただけるような展示を企画していきます。



首里城公園 Facebook 始めました
首里城公園の旬な情報を楽しくわかりやすくお届けします。
<https://www.facebook.com/shurijocastlepark/>



海洋文化コラム Vol.4

～「羽ばたく船」～



西表島・祖納のユークイ

西表島の祖納と干立の両落では、旧暦八月九月の己亥の日から三日間にわたって、国の重要無形民俗文化財に指定されている「節祭」という祭りが行われます。シチとは季節や年の節目、折目を意味する言葉で、それまでの「世(豊穡や平安など)」に感謝し、さらなる「世」の到来を願う祭りです。

一日目は「年の晩」といって各家庭で厄除けの行事を行い、三日目の「止留式」では水感謝の意を込めて井戸を拝む儀礼が行われます。最も賑わうのは二日目の「世乞い」で、「世」の到来を希うために各種の芸能やサバニを使う競漕が行われます。

この競漕では、最初に神聖な歌を唄いながらゆったり漕ぐ儀礼的な競漕が行われます。その際、櫂(西表島ではヤフ)を高くはね上げる特別な漕ぎ方をします。その姿は、まるで鳥が羽ばたいているように見えます。こうした儀礼的な競漕は西表島近くの黒島の豊年祭や沖縄本島の糸満ハーレーなどでも行われていて、やはり同じ漕ぎ方をします。

また、黒島の豊年祭では競漕後「ヘンサー、ヨイサー」と声を掛けながら船を持ち上げて運びます。糸満ハーレーでも「サー、ヘンサー、ヘンサー」というのはやし言葉が入る歌が唄われます。ヘンサーは鳥のハヤブサを指す言葉です。祭りの際、船はハヤブサのように羽ばたきながら、「世」を運ぶと考えられているのです。

沖縄県内、早い所では四月ごろから船漕ぎが行われます。漕ぎ方や掛け声、歌の文句にも注目してみたいかががでしょう。

海洋博物館の海洋文化館では、西表島の「世乞い」ほか各地の競漕の映像をご覧頂けます。(板井英伸)

<和名> Vol.38
サガリバナ
(別名) サワフジ
<科名>
サガリバナ科
(学名: Barringtonia racemosa (L.) Spreng.)



沖繩の 大木



サガリバナの花



幹挿した部分

サガリバナは、湿地や川沿いに群生する植物で、南太平洋一帯に分布し、日本では奄美大島以南に分布する常緑高木です。沖縄ではマングローブ林付近の湿地や川沿いに自生しているほか、公園や街路樹として植栽されています。

名護市真喜屋の集落内を優雅に流れる小川付近には、1998年に名護市より文化財に指定された「真喜屋のサガリバナ」があります。文化財に指定された際は、樹高約6m、幹周り64cm、推定樹齢は150年以上で国内最大級でしたが、2002年9月に甚大な被害を起こした台風16号により、根元から倒伏しました。その後、地元住民らが再生に力を注ぎ、折れた幹の上部約2.5mを幹挿しし、残った根元は新芽を萌芽させ、両方が咲くまでに復活させることが出来ました。

地元では、このサガリバナを「モーカバナ(舞香花)」と呼び親しみ、毎年花が咲く6月頃に合わせて「舞香花祭り」を開催しており、長年にわたり地域の人々から愛され続けられている大木です。(島袋雅矢)



15th ANNIVERSARY 沖縄美ら海水族館

2017年11月1日に開館15周年を迎えました。開館15周年は「深海」をテーマとした体験型イベントの実施やオリジナルグッズを発売。また本部町の小学生を対象にジンベエジェットの遊覧飛行を行いました。

沖縄美ら海水族館 × GODAC 深海展

2017年11月1日～2018年1月8日
GODAC(国際海洋環境情報センター)とタイアップし、沖縄美ら海水族館4階イベントホールにて深海展を開催。
ミツクリザメやラブカなど深海に棲む生き物の貴重な標本展示に加え、沖縄の深海にさらに興味を持っていただくため、深海調査に使用される水中カメラロボット(ROV)を操縦する体験、実験装置を使って水圧の力を目で見る事ができる講演会、深海の人気者オオグソクムシに触れてもらう体験なども実施し、子どもから大人まで楽しんでいただいています!



開館 15 周年記念グッズの販売

沖縄美ら海水族館開館15周年を記念して、オリジナルデザインを採用した、可愛いらしくて楽しい様々なグッズをご用意しました。
メガマウスやミツクリザメ、オオグソクムシ、ダイオウイカをはじめとした深海の生物達が、Tシャツやトートバッグ、ボールペンやパタパタメモなどに変身!
沖縄美ら海水族館売店「ブルーマンタ」と沖縄美ら海水族館アンテナショップ「うみちゅらら」(那覇市)で販売しております。この機会に、ぜひお買い求めください。



パタパタメモ 324円
シャープペン・ボールペン 各378円
※価格はすべて消費税込

触れる映像体験「タプトーク」導入

2017年11月1日～
沖縄美ら海水族館内深海エリアでは「タプトーク」を導入しました。壁に、リアルな深海エビやオオグソクムシが映し出され、触ると普段は見ることのできない意外な行動を見ることが出来ます。また、光る深海ザメ「フジクジラ」が天井に映し出され、海底にいるようなリアルな演出にも注目です。



ジンベエジェット遊覧飛行

2017年10月21日
沖縄県本部町の小学校4～6年生児童約100名を対象に、日本トランスオーシャン航空株式会社(JTA)と連携し、ジンベエジェット遊覧飛行を実施しました。
今回のジンベエジェットは新型機材となり、遊覧飛行当日が、初めてお客様を乗せて空を飛び記念フライトになりました。離陸後の機内では、サメに関する講義やクイズ大会、着陸後はJTA整備士による航空教室を実施しました。
参加した児童からは、「サメの研究がしたい」「客室乗務員になりたい」など、将来の目標も聞かえた有意義な遊覧飛行となりました。



10th ANNIVERSARY

沖縄県立博物館・美術館 おきみゅー

2017年11月1日に開館10周年を迎えました。これを記念して開館記念日にあわせ様々なイベントを実施しました。

愛称 & マスコットキャラクターが決定



2017年11月1日に行われた沖縄県主催の記念式典で、事前に公募した沖縄県立博物館・美術館の愛称「おきみゅー」、およびマスコットキャラクターを発表しました。可愛い響きとキャラクターで、より親しみの持てる施設を目指します。

秋の ART & MUSIC FESTIVAL!



沖縄美ら島財団主催で、誕生祭「秋のART&MUSIC FESTIVAL!」を文化の日で開催。沖縄最古の鐘(旧大聖禅寺の梵鐘)の鐘つき体験や、若手アーティストの作品が並びアートマーケット、モンゴル800による音楽ライブを実施し、たくさんのお客様に足を運んでいただきました。

Pre-APOC2017 Most Artistic Display賞を受賞

沖縄美ら島財団は、2017年8月23日～27日の期間マレーシアにおいて開催された「Pre-Asia Pacific Orchid Conference (PRE-APOC) 2017 KUCHING」のディスプレイ部門に出展し、厳正な審査の結果、ディスプレイのデザイン性と技術力が評価され、Most Artistic Display賞を受賞しました。
Pre-APOC2017は、世界25の国と地域が参加した国際ラン展で、2019年にボルネオ島のクチン市で開催予定の「第13回アジア太平洋蘭会議(APOC13)」のプレ大会として実施されました。会場には世界各国から集まったランの花に彩られ、花も人も国際色豊かなものとなりました。当財団は「サクラが繋ぐ友好の輪」をテーマに、日本庭園風の作品を完成させました。当財団の技術力と育成したランのすばらしさを世界に発信する絶好の機会になりました。



2017 沖縄美ら島財団 【感謝の宴】を開催しました

2017年11月1日、日頃より当財団の管理運営施設への送客等にご尽力いただいている方々を招待し、沖縄美ら海水族館にて「2017 沖縄美ら島財団【感謝の宴】」を開催しました。
感謝の意を表するとともに、沖縄美ら海水族館開館15周年を記念した「深海への旅 エリア」での新展示紹介や飼育技術の情報発信、首里城公園開園25周年・沖縄県立博物館・美術館開館10周年など各施設での新たな取り組みを紹介しました。
今後、観光関連企業および団体、地域との連携を図っていきます。



身近なところに沖縄の魅力がある。子供たちや参加者が自ら自然の魅力を発見できるような取り組みを美ら島自然学校では行っていました。
取材を通して沖縄の自然全体が、美ら島自然学校の教材の一部なのだと感じました。
編集 後記 (編集事務局 MK)

おもろさうしの

植物

其の十一

「あかき・ゆすき」

(アカギ)

(イスノキ)

琉球王国第4代尚清王代に首里王府によって編纂された歌謡集「おもろさうし」に登場する植物の紹介コーナー。
※ 海洋博公園内おもろ植物園で見ることが出来ます。

「解説」

東方の大王(太陽)が上がってくる。その太陽の前に、アカギ、ユスギの花が、真白に、真赤に咲いているから、それを取って折り差して、かざしたいものだ。

「あかき」は植物名。垂帯植物。赤肌の木であるためアカギといわれる。建築材、船材などとして用いられている。

「ゆすき」は植物名。イスの木。家の囲いに植えられた。建築材にも用いられる。三重、和歌山、島根、福岡辺りではユスノキ、熊本、鹿児島、高知、愛媛辺りではユスという。沖縄ではユスギ、またはユシギという。

太陽が上がってくる時、アカギ、ユスギの花が照り映えているので、それを折り取って差し、かざしたいものだ、と謡う日出賛歌である。

一 東方の大王

あかき 真白に

あかき ゆすきの花の

真白 真赤ら 咲き居れば

おれよ 取て おりさちへ

(後略)

東方の大王(太陽)が上がってくる

その大王(太陽)の前に

アカギ・ユスギの花が

真白に、真赤に咲いているから

それを取って折り差して

(かざしたいものだ)

(後略)

「第一三巻八二二」



おもろ名 あかき
科名 アカギ
和名 トウダイグサ科
方言名 アカギ

一口メモ

アカギは主に山地及び低地の石灰岩地域に生える樹高25メートル以上に育つ常緑高木であり、適潤で肥えた土壌を好む。沖縄群島、先島群島に生育し、台湾、中国南部(インド、マレーシア、ポリネシア、オーストラリア)に分布する。和名は樹皮や材が赤みがかつた褐色であること由来する。2月5月に帯緑色の小さな花を咲かせる。

沖縄県那覇市首里金城町の内金城御嶽境内には、国指定天然記念物の推定樹齢一百から三百年になる大アカギが生育している。日本最西端の与那国島では世界最大の蛾「ヨナグニサン」の食草となっている。



一口メモ

イスノキは、日本(近畿以南西、四国、九州、沖縄、台湾、中国の山地)に自生する高さ20メートル程に達する常緑高木である。樹皮は紅褐色を呈し、平滑または鱗片状となる。葉は革質で、長さ3〜8センチ程度。花は紅褐色で小形。沖縄では1〜3月頃に咲く。

イスノキの材は硬く、割裂がなく、耐朽保水性が高く、光沢があって美しいため、柱や床板等の建築材、三味線の棹、琵琶の撥等の楽器にも利用されている。薪炭材としても一級品で、木灰は陶器にも用いられる。

おもろ名 ゆすき
和名 イスノキ
科名 マンサク科
方言名 ユスギ、ユシギ

※ 出典:「おもろさうしの植物」 発行:(財)海洋博覧会記念公園管理財団(現・(一財)沖縄美ら島財団)

沖縄美ら島財団



沖縄美ら島財団
総合研究センター



海洋博公園



首里城公園



美ら島
自然学校



当財団では、これまでに蓄積してきたノウハウを活かし、普及啓発、環境保全、地域貢献等の活動に取り組んでいます。

ちゅ うまんちゅ
美らなる島の輝きを御万人へ

沖縄美ら海水族館



沖縄県立
名護青少年の家



なご
アグリパーク



沖縄県立博物館・
美術館
おきみゆー



2018年1月発行

一般財団法人 沖縄美ら島財団広報誌

企画・編集・発行

一般財団法人

沖縄美ら島財団
Okinawa Churashima Foundation

〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川888
TEL.0980-48-3645 FAX.0980-48-3900

季刊誌 南ぬ風 冬号 vol.46
2018.1~3

制作・印刷/株式会社 東洋企画印刷 〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町4-21-5 TEL.098-995-4444

ISSN 2189-4140